



第 141 回古民家歴史部会・歴史探訪

「横浜散策 18 区シリーズ・第 16 回」

令和元年 10 月 2 日(水) 「保土ヶ谷区・陣ヶ下溪谷公園」

*集合：相鉄上星川駅(改札口) 9 時 50 分厳守同時出発

*解散：相鉄上星川駅



かつて東海道の宿場として栄えた保土ヶ谷。歴史だけではなく、商業や農業、生活に潤いを与えてくれる自然環境など、多くの魅力を持った地区です。「ほどがや」の地名は鎌倉時代この地を支配していた^{はんがや}榛谷重朝の「はんがや」→「ほどがや」に転化したと言われています。

その表記には①程ヶ谷 ②程ヶ谷 ③程谷 ④ほどがや ⑤保土ヶ谷 ⑥保土ヶ谷 ⑦保土谷 ⑧保戸谷 ⑨保戸ヶ谷 ⑩本と可や 等の多数あるが、現在横浜市が採用しているのは⑥の【保土ヶ谷】です。つまり小さい「ヶ」ではなく大きい「ヶ」です。

【参考資料】★散策コース「横浜」(昭文社)

★神奈川県謎解き散歩(新人物文庫)

★保土ヶ谷区役所発行図書ほか

①蔵王高根神社・薬師堂

神社に上がる階段の下には明治 39 年(1906) 建立の馬頭観世音の石塔があり、隣の薬師堂敷地内には、庚申塔(元禄 9 年・1696)、地神塔(文化 11 年・1814)、念仏塔とともに、めずらしい指さし道標もあります。

②両郡橋

明治 20 年(1887) わが国最初の近代水道の創設に伴い、津久井郡三井村から横浜村まで水道管が敷設されました。その後、この水道管に沿って人馬の往来ができるようになり(現水道道)、この橋もかけられました。橋の名前は、都筑郡上星川村と橋樹郡坂本村との境にあるということで「両郡橋」とつけられました。橋の上流には堰がつくられ、仏向、下星川(現星川)、神戸三村の水田用用水路が掘られ、その近くには水車もあったと伝えられています。

③隋流院

川島山随流院は禅宗の中の曹洞宗に属し、本尊は聖観世音菩薩です。慶安元年(1648)には、徳川家三代将軍家光公より観音堂領 3 石余の朱印地を下付されました。現在も、当時の朱印証箱、朱印札及び住職が江戸城への年賀登城の際に使用した駕籠が本堂に保管されています。なお、ここは川島小学校(川島学舎)発祥の地です。

④陣ヶ下溪谷公園

ここは保土ヶ谷の秘境、横浜で唯一の溪谷です。総面積 15ha(約 45,000 坪)の広大な地域で、スギ、

ヒノキの暗い林の下はシダ類の宝庫です。奥の尾根筋の明るい雑木林には貴重なめずらしい植物も多く見られます。この地域は主に陣ヶ下溪谷公園(風致公園)として整備されています。初夏には、蛍が飛び交う自然豊かなところですよ。

⑤みずのさかみち

この坂の名前は、坂の地中に鶴ヶ峰浄水場から西谷浄水場へ繋がる水道管が埋設されていることからつけられたものです。この坂道は平成 2 年に「ふるさと坂道三十選」に選ばれ「手作り郷土賞」を受賞しました。

⑥横浜水道記念館・水道技術資料館

この記念館は、昭和 62 年(1987)横浜水道創設百周年を記念して水道技術資料館とあわせて開設し、一般公開されています。水道記念館では水道の歴史や仕組みを楽しく分かりやすく解説し、水道技術資料館では水道技術の移り変わりを展示しています。建物は、西谷浄水場旧管理棟を記念館に、工事部事務所を資料館に利用したものです。

⑦川島町旧配水計量室上屋

この計量室は大正 3 年(1914)、横浜水道第 2 次拡張工事の時に、関内、山手、本牧方面に給水する配水量を計る装置を設置するために建設されました。外装には横黒・鼻黒煉瓦を用い、浄水場内に残る 6 基の整水室上屋の建造物と共に国の登録文化財に指定されています。



保土ヶ谷区 陣ヶ下溪谷公園



保土ヶ谷区の位置



横浜散策18区

本郷ふじやま公園古民家歴史部会

